

R 8 年 1 月放送分
「米軍海兵隊による沖縄県道 1 0 4 号線越え実弾射撃訓練の分散・
実施について」
(日本の防衛 Q & A)
(自衛隊百科)

R7. 12. 19 収録

【パーソナリティー】

本日は、「米軍海兵隊による沖縄県道 1 0 4 号線越え実弾射撃訓練の分散・実施」をテーマに、東北防衛局から職員の方にお越しいただきました。よろしくお願ひします。

【山内】

地方調整課基地対策室の山内です。普段は自衛隊の基地に関することや外国との共同訓練に関する業務を担当しています。宮城県仙台市出身で採用 2 年目です。よろしくお願ひします。

【パーソナリティー】

こちらこそよろしくお願ひします。それでは、早速ですがお話を伺っていきます。

【山内】

はい、在日米軍は日本国内で様々な訓練を行っていますが、その中の一つに今回のテーマである「沖縄県道 1 0 4 号線越え実弾射撃訓練の分散・実施」というものがあります。今日は、沖縄に駐留している部隊が宮城県へやって来て行う榴弾砲の射撃訓練についてお話をしたいと思います。

【パーソナリティー】

沖縄に駐留している部隊が宮城県へわざわざやってきて訓練をするのですか？

【山内】

はい。この訓練は、かつて沖縄本島の北部に位置するキャンプ・ハンセンという基地で行われていました。しかも、この基地を横断する沖縄の県

道104号線をまたぐ形で射撃が行われていたのです。

【パーソナリティー】

県道をまたいでの射撃ですか!?そんな危険な訓練を沖縄で実施していたのですか。

【山内】

もちろん、訓練の時は危ないので、県道を通行止めにしていましたが、騒音や振動とか射撃そのものによる問題と、地元にとって大切な道路が、訓練の度に閉鎖されてしまうという問題もありました。

【パーソナリティー】

確かにそうですよね。訓練の度に道路が閉鎖となると、周辺住民の方々の日常生活にも支障が出ますよね。

【山内】

はい。そういった問題から、地元にはこの訓練を何とかしてほしいといった強い要望がありました。これを受けて、日本とアメリカで話し合いをして、平成8年にこの訓練を日本の本土へ移転することが合意されたのです。この合意に基づいて、平成9年から本土にある5つの自衛隊の演習場において、周辺自治体の了解をいただいたうえで訓練を実施しています。

【パーソナリティー】

その5つの内の一つが宮城県ということなのですね。東北地方も沖縄の負担を軽くするために貢献しているということですか。

【山内】

はい。そのとおりです。

【パーソナリティー】

では、宮城県で行われている海兵隊の射撃訓練について、詳しくお話を伺ってはいかがでしょうか。今年は1月～2月の間で行われる予定と聞いていますが、この訓練は、どのくらいの頻度で行われているのですか。

【山内】

基本的には、年に4回、本土5演習場のうちの4箇所で行っています。

宮城県の王城寺原演習場については、平成9年以降、今年で22回目の実施になります。

【パーソナリティー】

この訓練には、どのような部隊が参加しているのですか。

【山内】

沖縄に駐留する第3海兵師団第12海兵沿岸連隊から中隊レベルの部隊がやってきます・・・。

と、聞いてもあまりピンとこないですね。

【パーソナリティー】

はい、まったく分かりません。

【山内】

そうですね。

この海兵沿岸連隊は様々な部隊から成り立っており、今回沖縄からやってくるのは砲兵部隊になります。砲兵には大砲の「砲」という文字が使われていて、一般的に、大砲といった火砲、ロケット、ミサイルによる戦闘を行う部隊です。

【パーソナリティー】

ありがとうございます。少しイメージがわきました。

実際に部隊の方々とお会いしたことはありますか。

【山内】

はい。昨年の訓練の際、隊員の皆さんと食堂で夜ご飯を食べた時に年齢を聞いてみたんですが、ほとんどが20～22歳と年齢の若い隊員が多くて、びっくりしました。とても元気と活力に満ちている印象を受けました。

【パーソナリティー】

そんなに若い隊員が祖国を離れて、遠い地で訓練を重ねているんですね。その隊員たちは、この訓練でどのようなことを行っているのですか。

【山内】

訓練の中心は、155ミリ榴弾砲の実弾射撃です。榴弾とは地面に落下

した時に爆発するものです。155ミリというのは大砲の大きさのことで、これは弾の直径と同じと考えていいかと思います。約15センチというと、だいたいスマホより少し大きいくらいでしょうか。

【パーソナリティー】

なるほど。弾の大きさは何となくイメージできました。この訓練は沖縄の負担を軽くするための訓練ということですが、一方で、この訓練を受け入れることになった王城寺原演習場の周辺住民の方々には、キャンプ・ハンセン周辺の住民と同じように騒音や振動、万が一の事故という不安があると思います。

【山内】

はい。おっしゃる通りで、王城寺原演習場の周辺自治体や住民の皆さまにはご負担をかける結果となっています。こうした地元住民の不安やご負担を軽くするために、東北防衛局は様々なレベルで演習場がある地元自治体の皆さまや関係機関の方々ときめ細かな調整を行い、地元の皆さまにご理解をいただいたうえで実施しています。

【パーソナリティー】

なるほど、10月と12月に「東北防衛局における周辺対策事業について」放送した際に、自衛隊や米軍が行う訓練や防衛施設が所在することで生じる障害を防止あるいは緩和して、その周辺地域の生活環境の整備に必要な措置を行う事業を実施していることをお聞きしましたが、それと共に地元の理解を得るために各種の調整が行われているわけですね。

では、訓練が始まると、東北防衛局はどのようなことを行っているのでしょうか。

【山内】

はい。訓練期間中は、王城寺原演習場内に「現地連絡本部」を設置します。連絡本部には職員がローテーションで約30名勤務し、地元自治体や関係機関への情報提供はもちろん、演習場周辺の見回りを行って地元住民の安全を確保し、不安をなくすための活動を行います。また、当然のことですが、海兵隊とも毎日調整を行い、訓練が安全に円滑に実施できるように努めています。

【パーソナリティー】

地元住民の皆さんの不安をなくすために様々な活動をしているのですね。ところで、地元自治体や住民の方々が海兵隊と交流することはあるのでしょうか。

【山内】

はい。例年ですと、海兵隊の指揮官が地元自治体を訪問し、安全に配慮した訓練を行うことなどを説明しています。また、訓練が終わった後は、地域への貢献や交流活動の一環として、海兵隊の隊員が地元のこども園を訪問して子供達との交流やボランティア活動を行っています。

【パーソナリティー】

地元のこども園を訪問して子供達とどのような交流をされているのでしょうか？

【山内】

はい。昨年度は、綱引きやリレーといったスポーツやダンス、歌などを通じて子供達と交流しました。また、子供達との交流後には地元への感謝の気持ちを込めてこども園の駐車場のライン引きやウッドデッキのペンキ塗装などのボランティア活動を行いました。

【パーソナリティー】

東北防衛局が地域と米軍の間に立って、海兵隊と地元自治体や住民との交流を支えているのですね。

【山内】

はい。訓練の円滑な実施のためには、地元自治体と住民の皆さまのご理解は非常に大切だと考えておりますので、地域と在日米軍の間の架け橋となって、地域と防衛の共生を図ってまいります。

【パーソナリティー】

この訓練の実施に向けて、東北防衛局として、きめ細かな多くの調整と活動が行われていることが分かりました。今年も無事、訓練が実施されることを祈っています。

本日は、東北防衛局の山内さんにお話を伺いました。ありがとうございました。

【山内】

こちらこそ、どうもありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。